

面積: 183,112平方キロ
(日本の本州の約4/5)(全米50州中19位)
人口: 762,062人(2019年国勢調査概算)(全米47位)
(白人84.0%, 黒人3.4%, 米インディアン5.5%, ヒスパニック
3.9%, アジア1.8%)(2019年国勢調査概算)
州都: Bismarck 愛称: Peace Garden State

ノースダコタ州概要



令和2年7月現在
在シカゴ総領事館

政治

【州政治】

- 知事: ダグ・バーガム (Doug Burgum)(共)
2017年1月就任, 現在1期目
- 議会構成: 二院制
上院議席数47 民主党10 共和党37
下院議席数94 民主党15 共和党79
- 内政状況:
共和党的地盤であり, 1964年以降の大統領選挙では全て共和党候補が当選している。州選挙でも圧倒的に共和党が強く, 1980年代半ばから2000年を除き州知事を始めとする州の高位公選職は殆ど共和党で占められてきている。2018年選挙では, 農村区出身で人気があった民主党連邦上院議員が落選し, 連邦上下両院の全議席が共和党となった。
知事も共和党が続き, 一期で退任したダルリンプル前知事の後も2016年選挙にてIT企業出身のバーガム知事の当選となった。
なお, 2016年後半は, シェール・ブームに伴い, 州内敷設予定の石油パイプライン「ダコタ・アクセス」に対するスタンディング・ロック・スー族とオアヘ湖の保護団体による反対運動が全米の注目を集めた。

【連邦政治】

- 大統領選挙人数: 3名
- 2016年大統領選挙における勝利政党:
共和党(得票率63.5%)
- 連邦上院議員(議席数2名)
ジョン・ホーベン(John Hoeven)(共)
ケビン・クレーマー(Kevin Cramer)(共)
- 連邦下院議員(議席数1名)
共和党1名

経済

【州経済】

- 主要産業
・農業: 穀物(小麦等), ビート
・食品加工, 機械製造
・鉱業: ガス, 石油, 石炭
- GDP: 570億ドル(2019年)
- 1人当たり個人所得: 57,501ドル(2019年)
- 失業率: 6.1%(2020年6月)
- 輸出額: 6,749百万ドル(2019年)
- 輸出品目: 石油・ガス, 石油・石炭製品, 一般機械, 農産物, 化学製品
- 輸出相手国(2019年):
カナダ(88%), メキシコ(3%), オーストラリア(2%), ドイツ(1%)
- 財政: (2018年度)
(出典 US Census Bureau)
歳入: 8,880百万ドル
歳出: 7,216百万ドル
債務残高: 3,041百万ドル
- 経済状況
冬の厳しい寒さと少雨を活かした春小麦やデュラム小麦の生産が盛んで, 小麦生産量ではカンザス州と並び米国を代表する生産州である。小麦, 砂糖, 食肉等の食品加工や農機具等の機械製造が盛ん。近年は, シェールオイル生産が拡大, テキサス州に次ぎ第2位の原油生産量となった。

【対日経済】

- 対日輸入額: 67百万ドル(2019年)
- 対日輸出額: 37百万ドル(2019年)
- 主要輸出品目
農産物, 輸送用機器, 加工食品, 一般機械, 木材製品
- 日系企業の進出状況/雇用数: 約20事業所/約350人(2018年)
- 州駐日事務所なし

日本との関係

【要人往来】

特になし。

【文化, 広報関係】

日本より若干の学生, 研究者がノースダコタ州内の大学に留学しており, 特にノースダコタ大学には, パイロット養成プログラムを有する米国屈指の航空学部があり, 全日空の支援を得て, 東海大学の学生がパイロットの研修を行っている。

【在留邦人数(2019年10月1日現在)】

209人

【日本人学校・補習校数】

なし

【友好都市関係(1)】

2015年11月, 栃木県鹿沼市とグランドフォークス市との間で友好都市協定を締結(元々1998年に旧粟野町とグランドフォークス市が姉妹都市提携を締結。その後, 2006年に旧粟野町が鹿沼市と合併した後も現在まで交流が継続。)

現在は学生の相互訪問や外国語指導助手の派遣等が中心。なお, グランドフォークス市「Sertoma Park」内には旧粟野町から寄贈された日本庭園あり。

【名誉領事】

ミネアポリス在住のリチャード・E・スタール名誉領事が兼務。